

## 安全で安心な酪農を目指して

丸山 純

朝霧メイプルファーム(有)・取締役 牧場長

## 連載開始にあたって

読者の皆さん、こんにちは。朝霧メイプルファームの丸山純です。

年号が変わり、西暦も新しい10年を迎えました。時代は変わり続けています。酪農業界も機器のイノベーション、研究の賜物である新しい知見によって、技術は日々目覚ましい発展を続けています。

ただ、いまだ発展途上の分野もあります。それは安全管理ではないでしょうか。はっきり申し上げます。酪農業界の安全管理に対する意識は非常に低いと思います。

私は、この誌面上で宣言したいと思います。酪農業界において、ここからの10年間、20年代は、安全管理発展の10年間になると。

私は過去、何度も安全に対する意識改革を呼びかけてきました。それでもなぜ、繰り返し安全対策について論じなければならないのか。それは一向に業界全体の意識が向上していないためです。

今回の連載は非常にシビアなものになります。辛い経験や悲しい過去を想起させることがあるかもしれません。しかし、この20年代を健康のまま過ごすためのスタート地点だと思って、皆で前向きに安全対策について考えていきましょう。

酪農の危機意識、  
低くないですか？

今回、安全管理に関する連載を始め

## 第1回

## 2020年代は

## 安全管理発展の10年に

るに至った経緯から、皆様にお伝えしたいと思います。

メイプルファームでは、数年前から安全に関するマニュアルを作成・運用しています。事故やヒヤットする経験に対し、原因と対策を考え、それを牧場の知見として集積し、予防につなげる環境を整備してい

ます。このことは、かつて従業員がスタンションに指を挟み、骨折した経験がきっかけとなっています(図1)。

私のなかで安全に対する意識が高まるにつれ、この業界は意外なほど安全に対する意識が低いことがわかりました。統計的に見ても、農業における重大事故の発生率は非常に高いです。

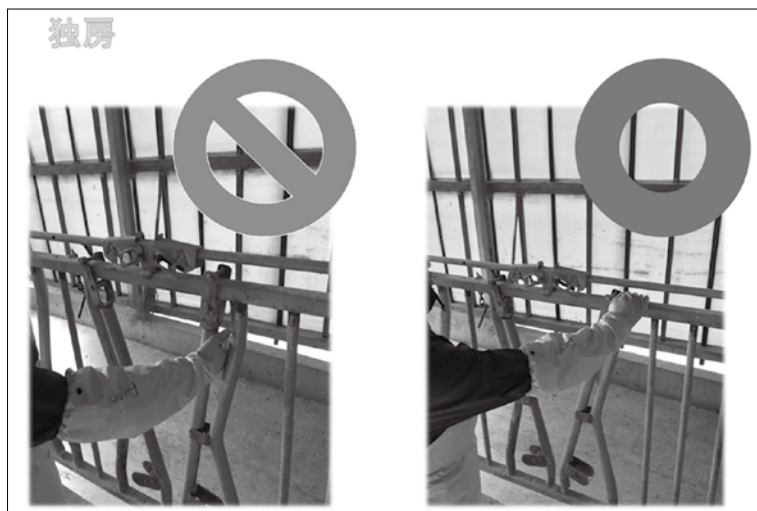
せっかく作ったマニュアルだからと思い、メイプルファームへ牧場見学に来た農家の方々に、安全マニュアルを配るようになりました。しかしそれから1年も経たないうちに、見学に来られた牧場で死亡事故が起こったと聞きました。私はこのときほど、無力感を覚えたことはありません。周りを見渡すと、重大事故は数多く起きています。嫌でも耳にします。

メイプルファームは、決して完全無欠の安全対策を行なっているわけではありません。むしろ、まだまだ足りていないと思っています。安全対策において甘えている部分があると感じています。しかし、メイプルファームは安全対策について、少なくとも行動を起こしています。

多くの牧場が、安全対策について具体的な行動を起こしていないのでしょうか？ 私はそう思います。



図1 危険防止マニュアル



## 三つの信条を胸に

このような連載を執筆することに、強い葛藤もあります。この先メイプルファームで重大事故が起らないとも限りません。そのとき、すべての言葉は自分に返ってくるでしょう。

しかし、「酪農業界全体の利益になることは何か?」と考えたときに、安全対策への意識改革ほど重要なものはないと思います。

私は一つの提案をしたいと思います。それは、牧場で働くすべての人が、三つの信条を胸に刻んでもらいたいというものです。一つ目は、「安全第一であること」。二つ目は、「事故の原因を見逃さないこと」。そして三つ目が、「事故を未然に防ぐこと」です。

### 1) 安全第一であること

「牧場運営で一番大切なことは?」と聞かれたら、私は、「働く人が健康であること」と答えます。その次に牛が健康であること、牧場が倒産しないこと、社会に貢献すること、発展性があること、と続きます。安全第一とは文字どおり、それが一番大切という意味です。命はかけがえがありません。この世界で絶対に取り返せないもの、それは命です。死んでしまえば、取り返しがつかないのです。畜産業は、作業中死亡することがあ

り得る業種です。それならば、それ以上に大切な心構えはあるでしょうか。

また、私達は牛を健康に管理する責任を負っています。しかし、その管理者が不健康のまま、その責任を果たせるでしょうか。人の健康あってこそその牛の健康です。

そして牧場が経済的な理由で倒産してしまっても、生きていればどうにかなります。生きていればこそその人生です。

### 2) 事故の原因を見逃さないこと

この記事を読んだ人は、この先の未来、事故を武勇伝として語ることはやめてください。はっきり言って時代遅れの行為です。生きていることの幸運を噛みしめて、事故が起きた原因を考えましょう。

従業員が事故を起こしたとき、「叱って終わり」はやめましょう。意識の問題で片づけるのは簡単です。しかし、事故のほとんどが環境の未整備、あるいはルール不足によるものです。

### 3) 事故を未然に防ぐこと

事故は未然に防ぐことができます。そのためには事故が起きにくい環境作り、そして安全な行動が求められます。

ここが重要なポイントですが、起こり得る事故を予見しましょう。それぞれの牧場の環境に、それぞれ個別の事故の可能性があります。

「こういうことがあってヒヤッとした」「こういう事故があった」——そうした経験を、対策という具体的な形に変えましょう。

\*

安全対策については規模の大小にかかわらず、すべての牧場、酪農施設にとって重要な意味を持ちます。むしろ個人酪農家の皆さんこそ、体が資本です。一人が欠けると、経営上致命的な人員不足になりかねません。夫婦間、親子間で牧場の危険を洗い出し、安全マニュアルを作成しましょう。

図2 メイブルファームのケーススタディ

**【事故】**

- ・スタンションに指を挟んで骨折。
- ・キャッチペンでの作業中、ロックされていないスタンションがあり、主任が部下にロックするよう指示をした。
- ・作業員は急いでロックを試みた。その素早い動きもあって、牛が驚き、首を引いた。その動きによってスタンションが指を挟み骨折した。

**【原因】**

- ・マニュアルがない。スタンションの操作によってどのような危険があるのか、従業員は知る術がなかった。

**【対策】**

- ・挟まれないようなマニュアル作り
- ・安全に利用できるスタンションへの更新

そして、せめて年に一度は安全対策について話し合ひましょう。

## みんなでケーススタディを共有しよう

安全対策について、業界一丸となって意識改革をしていきたいと思っています。そこで私からの提案

なのですが、Dairy Japan誌にヒヤリ・ハットや実際に起きた事故のレポートページを作り、ケーススタディ（図2）を業界全体の知識として集約していきたいと思っています。

事故は苦い経験で、目を背けたくなる気持ちもわかります。しかし新たな犠牲を生まないために、それを知識として未来に伝えていきましょう。

2030年、もちろん2040年も健康なままで過ごしたいですね。☺

《つづく》

農場事故レポートをお寄せください

あなたの農場での実際の事故事例、直面したヒヤリ・ハットについて、本誌編集部までお寄せください。投稿は FAX または e-mail、農場事故レポート専用投稿ページから。  
FAX : 03-3235-1736  
e-mail : milk@dairyjapan.com  
農場事故レポート専用投稿ページ  
<http://dairyjapan.com/accident-report>



好評発売中!

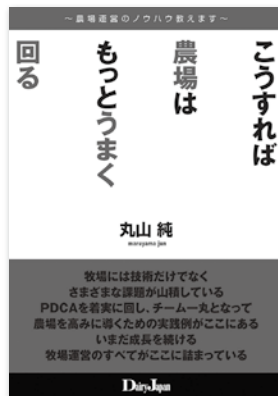
待望の増補・改訂版をリリース! 農場運営のノウハウがこの1冊に

農場をうまく回すには、PDCAサイクルを回し続けることと、強いチーム力が必須!

前著『若い酪農家が奮闘し気がついたこと…』発刊から3年——その間にさらに農場をうまく回すために進み続けてきた朝霧メイブルファームのノウハウを追記し、大幅に増補改訂しました。常に前進する酪農経営であるためのノウハウが詰まっています。

もくじ

- Chapter1 牛に優しい管理を
- Chapter2 安全で快適な職場に
- Chapter3 自分達でやってみよう
- Chapter4 本書を農場運営に活かすために
- Chapter5 農場の信条を掲げるクレドを作ろう
- Chapter6 皆さんのギモンに答えます!



回る  
もっとうまく  
農場は  
こうすれば

丸山 純 著

A5判/172頁 オールカラー  
定価3,200円+税

※本書は『若い酪農家が奮闘し気がついたこと…』を増補改訂したものです。